

第1号議案

2023年度 事業報告

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会（市同教）は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題を中心に、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざして取り組んできました。

本年度は、2023年5月8日からコロナウイルス感染症が「5類感染症」へと移行し、2020年4月に発令された緊急事態宣言以来3年ぶりに行動制限が大きく緩和されました。それにより、市同教の活動全てが、市民の皆様の参加のもと計画通りに開催することができました。

研究大会では、大会テーマを「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができまらちづくり」とし、基調講演は、坂田かおりさんに「誰もが輝いて生きるために」の演題で、ご講演いただきました。坂田さんは本気で相手とつながりたいという思いや本音で語り合おうとする姿勢の大切さを、自らのことばで熱く語られ、多くの方々の心を揺さぶりました。複雑化、多様化した現在の人権課題を解消していくには、私たち一人一人が同和問題や人権問題に無関心・無理解でいるのではなく、正しい知識をしっかりと身に付け、人を敬い、多様性を包み込むという生き方の大切さを強く感じました。

2021年にスタートしました人権・同和教育セミナーは、3年目にして初めて計画通りに開催することができました。本年度も、同和問題の解消に向けて、第一線で活躍されている講師の皆様から、貴重なお話を聞くことができ、人権課題について正しく知るとともにアップデート（更新）する機会となりました。なお、本年度は、専門部会の地域部会研修会（第2回～第5回）と位置付けたこともあり、毎回多くの皆様にご参加いただきました。

「みんなの人権を考える映画会」は、水平社創立100周年を記念して制作された映画「破戒」を上映いたしました。この映画は評価や知名度が大変高く、220名という多くの皆様に鑑賞いただきました。映画の中の「愚かだから差別するのではない。弱いから差別するのだ」という言葉が、印象深く「弱さとは何か？」「差別することは、自分の弱さを見せつけてしまうことなのか？」等々、自分の心の内に問いかけずにはいられない作品でした。

専門部会は、昨年度に引き続きすべての部会において研修を実施することができました。なかでも地域部会や男女共同参画センターとの共催で実施しました共生（仮）部会等、研修の在り方を工夫することにより、多くの方に参加いただくことができました。

現地学習のフィールドワークは「在日コリアンの生き方から学ぶ」のテーマで、京都府宇治市のウトロ平和祈念館で行いました。現地を訪れるからこそ得られる学びが多くあり、充実した一日となりました。

会報「人権・同和教育だより 丹波篠山」は、市民の皆様と市同教を結ぶ貴重な情報誌です。年間3回の発行に向け、延べ6回の編集会議を開催し、市民の皆様に親しまれる情報誌をめざして、紙面づくりに工夫を凝らしました。

本年度の市同教の活動は、全市民参加の教育・研究組織として「人間は尊敬すべきもの」という水平社宣言の趣旨を基軸に、人権・同和学习への関心と理解をより一層高めるべく取り組んでまいりました。今後とも、あらゆる世代の皆様に参加いただけるよう事業の在り方を工夫してまいりますので、市民の皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

1 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

- ① 日 時 2023年12月9日(土) 13:45~16:00
- ② 場 所 丹波篠山市立田園交響ホール
- ③ 参加者 341名
- ④ テーマ 「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくり」
 - 基調講演 「誰もが輝いて生きるために」
講師 坂田 かおりさん
(部落解放・人権研究所理事/人権テイク・ルート代表)

⑤実施状況

コロナ禍の3年間における急速な情報化や社会情勢の変化により人権課題はさらに多様化・深刻化するなか、部落差別について学ぶとあらゆる人権問題が見えてきます。今大会は、部落差別解消を原点とし、あらゆる差別の解消をめざし、誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくりの実現につなげようとしてきました。基調講演では、「差別されていい命はない。誰も愛されるために生まれてきた」「差別はする側の不幸！差別やいじめをすることはかっこ悪い！」等、体験談を交えながら力強いメッセージがありました。誰もが幸せに生きるためには、それぞれの「いのち」を認め合っていくことが大切であると強く心に刻みました。

2 専門部事業

1) 保・幼部会

- ① 日 時 2023年11月9日(木) 18:30~20:00
- ② 場 所 丹南健康福祉センター 研修室
- ③ 参加者 56名
- ④ テーマ 「不適切な保育を防ぐために～発生原因と防止～」
講師 山縣 文治 さん (関西大学 教授)

⑤実施状況

まずは、子どもに関係する法律として、児童福祉法や子ども基本法等について改めてお話していただきました。法に込められている精神を大切にすることが求められています。そのうえで、虐待と不適切保育、そして適切な保育についてはそれぞれその境界が曖昧で、同じ事象でも立場や状況によってかわることもご教示いただきました。虐待や不適切保育を防ぐには「個人の質」「実践の質」「組織の質」「制度の質」「社会・地域の質」の五つの質がポイントになり、まずは職員の資質をあげることが必要です。

私たちが考えるべきこととして「子どもの視点で見た最善の利益」「福祉とは何か」「最もふさわしい生活の場とは何か」なども示していただきました。

参加者からは「声かけ一つでも虐待になることを学びました」や「意識していない子どもとの関わりが不適切保育になる場合があると知って気持ちが引き締まる思いがした」等の感想があり、自分の保育を振り返る良い機会になりました。

2) 学校部会

- ① 日 時 2023年10月20日(金) 15:00~16:30
- ② 場 所 丹波篠山市民センター 催事場
- ③ 参加者 45名
- ④ テーマ 「同和教育を学級づくりの柱に据えて」
～みんなが幸せに生きる社会をめざして～
講師 細田 亜矢子さん (丹波市立青垣小学校 教諭)

⑤実施状況

現役の小学校教諭として人権・同和教育に取り組まれている細田先生から、自分の経験や実践を踏まえたお話をしていただき、教員として児童・生徒にどう関わるべきか、差別をどう教えるのか等について深く考える機会となりました。

まずは全国及び丹波篠山市、丹波市の人権に関する意識調査結果から差別の実態について私たちが正しく認識し、行動していくことが大切だと改めて気づかされました。今も結婚など自分に関わるときに差別意識が出てくことや、差別を見ないようにすること（不可視化）などの問題があります。そういった現状を知ったうえで、先生の、同和教育は「全ての子どもたちの教育を守る」ものという強い思いを感じる事ができました。今までお勤めになった学校では先輩や地域の方とつながりを深めて同和教育の精神を基盤にした学級づくりを進めてこられました。「納豆学級」と例えられていましたが、豆の状態では個々がバラバラ、豆腐では型にはまりすぎ、納豆はこぼれそうでもつながっていてしかも栄養がある、一人一人の存在を認められる学級集団づくりをご教示いただきました。

誰もがありのままに生きられる社会を作るために、私たち教員ができることの基本を教えていただいたように思います。

3) PTA部会

①日時 2024年1月21日(日) 13:30~15:00

②場所 丹南健康福祉センター 研修室

③テーマ 「コロナ禍における不登校の増加について考える」

講師 原 清治さん(佛教大学 副学長)

④参加者 63名

⑤実施状況

コロナ禍では、「褒められたくない」「目立ちたくない」「埋もれていたい」などと、人から見られることに疲れるという若者が増加している。それは、学力格差の拡大だけではなく、修学旅行や運動会などの学校行事の中止等による「体験」の機会の喪失により、より明確に現れてきた。そんな中、いじめの認知数や不登校児童生徒数は、小・中学校では著しく増加し、その要因は特定の事項に偏らず、先生のこと、体調不良、生活リズムの乱れ、友達のこと等、多岐にわたっており、理由を問われると相手により答えが異なる。また、偏差値の層によりいじめの実態が異なる。学力上位の子どもたちは親からの過大な期待を受け、幼少期から様々な習い事を強いられ、「全方位型のしつけ」を求められてしまう。主体的で対話的学びは正しいが、「つながる力」には個人差があるので、つながりを煽りすぎて「つながり過剰症候群」に陥らないように気をつけることが必要である。非認知能力を育てるために、遠隔授業、オンデマンドなどの方法も利用した「個別の最適な学び」の視点とコロナ禍で失われた「望ましい集団づくり」にも目配りが必要である。とご講演いただきました。

研修を通して、子どもの発するサインを見逃さないよう、無理せず、時代の状況もしっかり把握しながら子どもと向き合うことを大切にしていきたいと感じました。

4) 障がい者部会

啓発チラシ配布活動

①日時 2023年12月4日(月)、12月24日(日)

②場所 JR篠山口駅、バザールタウンをはじめ市内10カ所

③参加者 部会構成団体 43人

④キャッチコピー

「気づいていますか？あなたの心と笑顔が大きな支えになることを！」

⑤実施状況

障害者週間(12/3~9)にあわせ、啓発チラシを市内の9カ所で配布しました。

また12/24の市民センターまつりでも配布しました。2020年からコロナ禍で設置形式にしていたが、今年度は4年ぶりに手渡しでの形式に戻し、当事者、関係者市民の皆さんとのよい交流の場になったと思います。

本年度は企業部会研修会で上映する映画「チョコレートな人々」を障がい者部会研修会と兼ねました。

5) 共生(仮)部会 (兼 男女共生参画センターフィフティ開設1周年記念講演会)

- ①日時 2023年11月5日(日) 13:30~15:30
- ②場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール
- ③参加者 参加者120名中28名が市同教共生(仮)部会として参加
- ④テーマ 「ぐちを言うより変えていこう」
講師 中川 智子さん(丹波篠山市男女共同参画アドバイザー)

⑤実施状況

ぐちはため込まずに吐き出すことが大事。何かに「これはおかしい」と感じることや「こうあってほしい」と思うことを口に出して言い合えるゆるやかな関係の仲間ができれば、心も人生も豊かになる。納得できないことや腑に落ちないことから出るぐちの中には、何かしら問題点が含まれていて、改善や救いを求めているものもある。ぐちを不平不満の言葉として流してしまわず、話し合う中で出口を探っていく。など、市政を担っておられた時の経験をもとにご講演いただきました。

市長時代に核としておられた「命を第一に考える」は「人権を守る」につながるものと受けとめました。

参加者からは、「ぐちから始まる。ぐちから施策、政策につながる。困った人、弱い人に寄り添う政治姿勢を尊敬します」「とても良い時間でした。他人事ではなく自分のこととして捉えるためとか、アンテナをどれだけ広げているか、自分の感度をどう上げていけるか、考えさせられた」などの感想があり、有意義な研修会となりました。

本年度は企業部会研修会で上映する映画「チョコレートな人々」を共生(仮)部会研修会と兼ねました。

6) 宗教部会

- ①日時 2024年3月7日(木) 13:30~15:00
- ②場所 城東公民館 大会議室
- ③テーマ 「くらしの中の人権」～生き活き人づくり街づくり～
講師 向井 祥隆 さん(NPO 法人いぬいふくし村 理事長)
- ④参加者 96名

⑤実施状況

「今日、私は車いすで舞台上に上がっています。舞台上上がる時に4~5人の人に助けをもらい舞台上がりました。もし、スロープがあれば私一人で舞台上がれたかも知れません。障がいは人にあるのでしょうか。それとも、その人の住んでいる環境にあるのでしょうか」この問いかけに、障がいということについて立ち止まって、自分の考えを見つめ直すことができました。「障がいとは人に対してつけられる言葉でなく、環境につけられる言葉なのです」というお話を聞き、私たちの周りの様々な住みにくさ(環境)をなくしていくことの大切さを改めて感じました。重度の障がいを持った「この子らに世の光を」ではなくて、「この子らを世の光に」していくことの大切を考えさせられました。重度の障がいがあり、何もできないと思われがちの人が幸せになれる社会を作っていくこと。その社会こそが、みんなが

幸せを感じられる社会なのだとということを確認しました。

お金がなくてもできる、七つのいいこと「無財の七施」について話していただきました。眼施・・温かい眼差しで接する 和眼施・・明るい笑顔で接する 言辞施・・優しい言葉かけ 身施・・人や社会のために働く 心施・・感謝の言葉を使う 床座施・・場所や席を譲り合う 房舎施・・旅人に軒下を貸す(こころにゆとりを持つ)

参加者の声

「生活とは元気に生きがいを持って暮らすこと」このことを心がけていきたいと思えます。障がいは本人の責任か？環境の責任か？とのお話に考えさせられました。

「無財の七施」いろいろと気づかせていただきました。

7) 企業部会 (兼 障がい者部会・共生(仮)部会研修会)

①日時 2024年2月8日(木) 18:30~20:30

②場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール

③内容 映画会「チョコレートな人々」102分

④参加者 138名

⑤実施状況

「障がい者が通う作業所の工賃は安い。現場をつくって福祉を変えたい」とパン工房を開設した夏目さん。最初はみんなで頑張って障がいを克服しようとしていたが、行き詰まり閉店となる。そこで働いていた障がい者のお母さんの「この子は障がい者です」という言葉。障がい者に健常者と同じように動くことを求めているか。障がいがあることでどうしてもできない作業があることを理解できているか。本人が心や体に負担を感じているかもしれないことを考え配慮できているか。と振り返り、障がいのある人もない人もできることを生かして仕事しようという考えに。

失敗しても温めれば作り直すことができ、アイデア次第で付加価値が高まるチョコレート作りに注目。一人一人にあった作業の内容ややり方をみつけながら、難しさがあっても理想を求め、共に働くことの喜びが感じられる職場づくりをしていく。

この映画を通して、一人一人の存在を尊重することの大切さはどの職場、どの場面にも通じることだと感じました。参加者の感想として「できないから、やらさない、退職させるのではなく、その人のためにどうするのか、どんなことをするのかを考えることが大切だなと思いました」「夏目さんの“排除することは簡単だが、失敗してもチャレンジし続けることが大切”との言葉が印象に残りました」などがありました。

8) 高齢者部会

高齢者の人権学習は、単位老人クラブや自治会との合同で開催されました。内容は、「自分の住む地域のことを知り、考えたい」という願いから、「命を守る防災」「いきいき元気認知予防&介護予防」「韓流ドラマを通して差別について考える」等をテーマとして実施しました。

老人会組織が減少傾向にある中、実施困難なところもありますが、他団体と合同で開催する等、工夫をしながら意欲的に取り組まれました。実施した学習内容と会場は、資料として添付しています。

9) 地域部会

今年度の地域部会では、できる限り参加しやすいよう、また参加したい講座が選べるように、「人権・同和教育セミナー」の第2回~5回の中から選んで参加する形式にしました。こうしたことで、より多くの市民の方々に参加いただき、部落差別を正しく知るという啓発につながったと思います。

①日時、場所、内容については人権・同和教育セミナー2023を参照

②参加者	第2回セミナー	24名	
	第3回セミナー	15名	
	第4回セミナー	15名	
	第5回セミナー	14名	計68名

3 啓発推進委員会

啓発推進委員会においては、これまでの調査研究活動の成果を講師・ゲストティーチャーとして、市同教の諸部会や学校教育、外部の人権関係団体の学習・研修に取り組みました。教育・啓発活動へのより効果的な取組や様々な学習・研修依頼に対応できるように検討しました。

4 人権・同和教育セミナー2023

2021年度より、「人権尊重のまち丹波篠山市」をめざして、「人権・同和教育セミナー」連続講座を開講しました。会報で広く市民に参加を募りました。また、学校教職員や行政職員の参加も募りました。

1) 第1回人権・同和教育セミナー

- ①日時 2023年8月5日(土) 14:00~16:00
- ②テーマ 「水平社宣言と日本国憲法をつなぐもの」
- ③講師 上杉 聡さん(元大阪市立大学教授)
- ④参加者 46名
- ⑤実施状況

1871年の「解放令」が実質的には、部落差別を禁止する解放令ではなかったという事を説明いただきました。その後、西光万吉を中心に「全国水平社」が結成され、人間は「尊敬」すべきものとして、差別解消にむけての活動がはじまりました。そして戦後、日本国憲法に、「全国水平社」の理念、差別を禁止する等が盛り込まれた経緯をお話いただきました。

2) 第2回人権・同和教育セミナー

- ①日時 2023年9月2日(土) 14:00~16:00
- ②テーマ 「人の世に熱と光を~水平社創立の思想に学ぶ~」
- ③講師 駒井 忠之さん(水平社博物館 館長)
- ④参加者 64名 (地域部会研修会として24名参加を含む)
- ⑤実施状況

水平社宣言から差別を克服するキーワードを紐解き、その「綱領」と「宣言」に込められた理念と思想を詳しく説明いただきました。また100年前に宣言された水平社宣言は、いまや世界でも認められる人権宣言であると紹介いただきました。

差別を解消するためには、教育により正しく理解し、正しく判断すること、また常に自分の差別性と向き合い葛藤することの大切さを語られました。

インターネットによる差別事件の悪質化と、また社会の急速な変動にともなう差別の変化について語っていただきました。また、差別をなくすために、常に情報のアップデート(更新)をする大切さを学びました。そして差別問題を学ぶことは、多様な人たちとの関係を深め自分の人生を高めることになることを教わりました。

3) 第3回人権・同和教育セミナー

- ①日時 2023年9月30日(土) 14:00~16:00
- ②テーマ 「無関心でいられても、無関係ではられない人権問題」
- ③講師 松村 元樹さん

(公益財団法人 反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長)

④参加者 61名 (地域部会研修会として15名参加を含む)

⑤実施状況

差別というのは意識的にする場合だけではなく、無意識のうちに歪みや偏りをもってしまうものだと、様々な事例を挙げて説明いただきました。そして差別を無くすには、マイノリティ(少数派)ではなく、マジョリティ(多数派)が変わるべきであることを語られました。また、何も教えないことは差別をする人をつくりだし何もしないことは差別を維持してしまうと教えていただきました。

4) 第4回人権・同和教育セミナー

①日時 2023年11月3日(金) 14:00~16:00

②テーマ 「部落問題の現状と人権教育・啓発の課題」

—部落問題をどう語り、伝えるのか—

③講師 石元 清英さん(関西大学名誉教授)

④参加者 58名 (地域部会研修会として15名参加を含む)

⑤実施状況

多くのデータをもとに、被差別部落の実態とイメージがかけ離れていることを示されました。また、ネガティブ(悲観的)で誤った人権教育が、ゆがんだ人権意識を生んでしまう危険性があり、被差別部落の歴史や現状を正しく伝える大切さも語られました。そして、自分の権利を知ることや、あらゆる人権問題は「ひとごと」ではなく、自分の問題として、一人称で語る人権教育や啓発の重要性を述べられました。

5) 第5回人権・同和教育セミナー

①日時 2024年2月3日(土) 14:00~16:00

②テーマ 「部落差別と女性差別の交差」

—部落女性の解放運動からみえる私たちの社会—

③講師 熊本 理抄さん(近畿大学 人権問題研究所)

④参加者 52名 (地域部会研修会として14名参加を含む)

⑤実施状況

身元調査による結婚差別や就職差別などの事例をあげ、差別を社会的課題として語られました。そして二重三重の差別・圧迫や複合差別をうけてきた実態から、部落女性の戦後の運動について語られました。それが、教科書無償、保育所づくりなど、誰にとっても生きやすい社会になったことを解説いただきました。

5 「みんなの人権を考える」映画会

①日時 2023年8月11日(金 祝) 14:00~16:00

②場所 丹波篠山市民センター 多目的ホール

③参加者 220名

④テーマ 「破戒」

全国水平社創立大会から100年をむかえ、それでもなお人々の心から差別を無くす難しさに声をあげるため、島崎藤村の『破戒』が映画化されました。映画の台詞にもあるように、「なぜ自分の故郷を語れないのか」と部落差別に苦悩する主人公の苦しさや正しい教育が差別を無くす事を学びました。

映画を観られた方は、「個人の問題ではなく、社会の問題としてとらえ、差別で苦しむ人をなくしていかななくてはいけないと学習ができました」と感想を述べられていました。

6 フィールドワーク

- ① 日 時 2023年8月27日(日) 10:00~17:20
- ② 場 所 ウトロ平和祈念館「在日コリアンの生き方から学ぶ」
- ③ 参加者 23名
- ④ 実施状況

今年度は宇治市にあるウトロ平和祈念館に行ってきました。朝鮮人のまちウトロ地区は様々な困難に直面しながらも、ウトロに寄り添ってきた日本・在日・韓国の人々が協力して人々の尊厳と生活を守ってきました。そうした歴史から人権と平和の大切さを学びました。

7 連携推進事業

(1) 兵庫県人権教育研究協議会・丹波地区同教・丹波市同教との連携

丹波地区人権・同和教育研究協議会の研究大会、啓発冊子編集作業に関わるなど、市域を越えた交流を行い、様々な課題について協議を行いました。丹波市同教とは交流や情報提供をしながら連携を進めてきました。

(2) 部落解放同盟丹波篠山市支部連絡協議会・部落解放共闘会議との連携

各種研修会への参加を中心に行いました。

(3) 人権推進課、教育委員会との連携

毎月1回、三者での打ち合わせ会を継続し、研究大会の内容や丹波篠山市の人権課題について協議しました。多様化、複雑化する人権課題について各関係機関での課題について情報交換しました。人権教育の推進や啓発に関わる関係機関として、今後も連携を密にして進めていきたいと考えています。

また、本年度より市からモニタリング業務の協力依頼を受け、月に1回、インターネットの掲示板、閲覧可能なSNS等の差別的な書き込み、誹謗中傷等を確認し、市へ報告しています。

(4) その他

人権関係団体との連携

8 研究大会・研究集会への参加

(1) 第70回兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会(対面方式)

- ①日 時 2023年7月29日(土) 12:45~16:00
- ②場 所 丹波篠山市立四季の森生涯学習センター
- ③参加者 丹波篠山市より 124名

(2) 人権啓発研究第44回兵庫県集会

- ①日 時 2023年10月28日(土)
- ②場 所 兵庫県立のじぎく会館 西脇市立大野隣保館(サテライト会場)
- ③参加者 丹波篠山市同教より 1名

(3) 第74回全国人権・同和教育研究大会 兼 第70回兵庫県人権教育研究大会中央大会

- ①日 時 2023年11月25日(土)・26日(日)
- ②場 所 明石市(兵庫県の参加者)・神戸市・京都府・大阪府
- ③参加者 丹波篠山市より 23名

(4) 部落解放研究第56回全国集会

- ①日 時 2023年11月14日(火)~15日(水)

- ②場 所 和歌山市
- ③参加者 丹波篠山市同教より 2名

(5) 第38回人権啓発研究集会

- ①日 時 2024年2月1日(木)・2日(金)
- ②場 所 京都市
- ③参加者 丹波篠山市同教より 4名

(6) その他

諸研究大会・研究集会に参加して学んだことを各部会や役員会の中で報告し、多くの方に広げています。

9 会報の発行、ホームページの運用

会報「人権・同和教育だより丹波篠山」を6月・10月・2月の年間3回発行しました。「人権が尊重されるまちをつくろう」「身近な生活の中から学ぼう」をテーマに、6回の編集会議を開催し協議しました。分かりやすく、読みやすい紙面になるよう、工夫しました。

ホームページでは、総会資料、会報、専門部会情報、市同教の事業(映画会、フィールドワーク、セミナー等)を掲載しております。また、緊急の連絡もいたします。

ホームページアドレス <http://t-s-doukyou-hr.jp>

10 市民への学習支援

講師紹介や参考資料の紹介等、各団体の研修や個々の学習を支援しました。

11 図書・出版物の紹介

図書・出版物を購入し閲覧しました。

第4号議案

2024年度 基本方針並びに活動方針・事業計画

基本方針

1. 我が国の社会に今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の基本的人権が尊重されるまちづくりを推し進めます。
2. 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」等、人権関係法令の趣旨を踏まえ、人権課題の解決と人権文化の確立をめざす市民、事業者、団体、機関等と広く連帯し、差別のない共に生きる社会をめざします。
3. 人権・同和教育の学習活動の場を充実させ、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・地域づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会をめざします。

活動方針

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消と人権文化の確立をめざして取り組んできました。

しかし、私たちの社会には、AI活用による人権リスク、ネット上の人権侵害、産業構造の変化やそれに伴う経済格差の拡大等による子どもや若者の貧困、高齢者や子どもへの虐待、DVやいじめ、LGBTQ+など性的マイノリティへの無理解、様々なハラスメント、ヤングケアラー問題等々解決すべき多くの人権課題が生じています。中でもネット社会は、その匿名性や情報発信の容易さから簡単に差別が広がり、偏見が増幅される社会であり、子どもたちでさえも意図せずに加害者や被害者として巻き込まれる等、深刻な人権問題となっています。

さらに、今私たちは、気候変動や貧困、環境汚染、紛争やテロ等地球的課題を抱え、次の世代に繋いでいくためにも、誰ひとり取り残されることがない社会の創造を基本理念としたSDGs（持続可能な開発目標）の推進に取り組まねばなりません。また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や2023年10月に始まったイスラエル・ハマスの軍事衝突では、多くの市民や子どもたちが犠牲となっています。私たちは「戦争は最大の人権侵害である」との立場から、戦地の人たちの悲しみや苦しみに思いを馳せ「平和の大切さ」「命の尊厳」について関心を持ち続けなければなりません。

私たち市同教は、本年度も同和問題をはじめ多様化・巧妙化した様々な人権課題の解消を目指し「誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく幸せに生きることができるまちづくり」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

人権課題の解消には、「1人の100歩より100人の1歩」の考え方が大切となります。市同教では、引き続き「人間を尊敬することによって差別を克服していこう」という水平社宣言の理念を基軸にし、一人でも多くの市民の皆様、あらゆる世代の皆様の人権・同和学习への理解や関心をより一層深めていただけるよう、研修や啓発の在り方を工夫してまいります。

今後とも丹波篠山市同教は、全市民参加の教育・研究組織として、人権課題解消に向け邁進してまいりますので、どうかさらなるご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

事業計画

1. 第26回丹波篠山市人権・同和教育研究会の開催 12月14日(土)
 - ・研究会と人権フェスタとを同日に開催し、三者(丹波篠山市・市教委・丹波篠山市同教)で連携して取り組みます。研究会は、田園交響ホールで開催します。
2. 専門部会
 - ・保・幼、学校、PTA、障がい者、女性の人権と性の多様性、宗教、企業、高齢者、地域部会の9部会で取り組みを進めます。9分野別に課題と向き合い、テーマを決めて課題解決につながる学びの場を提供していきます。
3. 人権・同和教育と啓発活動、人材育成活動
 - ・各専門部会での研修は、それぞれの場で学びが実践へと発展するよう研修方法を工夫していきます。各団体やグループの研修会・学習会に講師を派遣したり、資料を提供したりして教育・啓発活動を支援します。
 - ・啓発推進委員会は、人権課題を踏まえ、広く市民に人権啓発活動を行い、人権文化の根付くまちづくりを担います。
 - ・「人権尊重のまち 丹波篠山市」をめざし、「人権・同和教育セミナー」連続講座を開講します。
4. 「みんなの人権を考える」映画会には「島守の塔」を上映します。 8月11日(日)
5. 市同教フィールドワークは「水平社博物館」(奈良県御所市)で研修します。 8月25日(日)
6. 連携推進
 - ・部落解放丹波篠山市民共闘会議との連携
 - ・丹波地区同教、兵人教との連携
 - ・市行政(人権推進課)、市教委、各団体との連携
インターネットモニタリング事業の協力
7. 各研究会・研究集会へ積極的に参加し、実践交流を図り、市の人権啓発活動に反映させます。
 - ・第71回兵人教丹波地区大会 7月27日(土) 四季の森生涯学習センター
 - ・第71回兵人教中央大会 9月29日(日) 赤穂市
 - ・人権啓発研究第45回兵庫県集会 未定
 - ・部落解放研究第57回全国集会 11月19日(火)～20日(水) 神戸市
 - ・第75回全国人権・同和教育研究会
11月30日(土)～12月1日(日) 熊本県 鹿児島県 福岡県
 - ・第39回人権啓発研究集会 2月4日(火)～5日(水) 奈良県橿原市
8. 広報啓発事業
 - ・会報「人権・同和教育だより 丹波篠山」を年3回(6月、10月、2月)発行し、市同教の取り組みの状況を知らせるとともに、日々の生活を見つめ、感動することや不合理に感じることなどを市民で考え合う場となるよう工夫していきます。
 - また、インターネットのホームページ上で人権に関わる様々な情報を市民の皆さんへ提供しています。総会資料、会報、専門部会情報、市同教の予定、関係法等を掲載しています。また、緊急の連絡やセミナーの募集などの情報も提供します。
 - ホームページアドレス：<http://t-s-doukyou-hr.jp>
9. 市民への学習支援
 - ・一人からの学びの要望に応じ、講師や参考資料(図書・出版物等)の紹介等、研修会・学習会の支援(計画から実施)を行います。
10. その他、目的達成に必要な事業